

## アート思考入門 (5)

アーティストがゼロから1を生み出すように、起業家もゼロから世の中のない新しいコンセプトを生み出し、事業を創出している。起業家とアーティストの独立心や精神構造は似ていると言われている。実際、そうしたことを裏付ける調査データが出ている。

米国でデザインやアートと技術との関係を研究しているジョン・マエダ氏の「デザイン・イン・テック・レポート2016」によると、当時のユニコーン（企業価値が10億円超の未上場企業）約160社のうち21%で芸術系教育を受けた人が共同創業者になっていた。米ユーチューブや英ダイソンなど、日本でもよく知られた企業の中にも芸術系大学出身の創業者が少なくない。

また、米大学の研究者リチャード・ポールセン氏は2020年に発表した論文で、米大学での専攻を「芸術系」「科学技術系」「その他のクリエイティブ系」に分けて卒業後の進路を調べた。すると、芸術系を専攻した学生は他の専攻に比べて、起業家や新興企業に入る傾向が高いという結果だった。産業界に進むとしても、自分の世界観を表現できる場を求めていると考えられる。

具体的にアーティストがどのようにスタートアップを起業したのか、事例をみてみよう。米エアビーアンドビーは2008年、ブライアン・チェスキー氏、ジョー・ゲビア氏、ネイサン・ブ

# ユニコーン創業者は芸術家

レチャールチック氏、ジョー・ゲビア氏の3人によって設立された。うち、チェスキー氏とゲビア氏の2人は同じ芸術系の大学を出ており、在学中に出会ったことが創業につながった。

エアビーアンドビーが企業価値3兆円の会社になるまでの創業の軌跡をまとめた書籍「Airbnb Story」（リー・ギャラガー著、日経BP）で、チェスキー氏は以下のように語っている。「同じ部屋でジョー（・ケビア）と一緒にアイデアをひねっていたら、他の人たちとは全然違うことができるって感覚を味わえたんだ」

同社のビジネスモデルは、ゲビア氏がバーで初めて会った人を自分の部屋に泊めた経験が基になっている。ゲビア氏にとっても、見知らぬ人を泊めるのは不安でその夜は眠ることができなかったという。この経験から、ホストとゲストの双方が信頼して宿泊するにはどうしたらいいかを真剣に考え、実験した。そして、適切な長さのプロフィールを公開すること、宿泊後に双方がお互いのレビューを記載する仕組みを開発した。

エアビーアンドビーの成功は、この信頼の可視化が非常に重要だったとゲビア氏は述べている。消費者向けサービスはいかに便利に予約ができるかといった点に力を入れがちだが、同社はそうはならなかった。自らの体験とそれに基づく自らの考えを重視するところにアーティストならではの思考を見ることができる。

同社のもう一人の創業者ブレチャールチック氏はエンジニアで、初代の最高技術責任者（CTO）だった。アーティストとエンジニアが出会う環境が豊富にあるところにも欧米の強さがある。日本でも美術大学と一般大学が連携するようになってきたが、アーティストが産業界で存分に活躍できる環境にはまだなっていない。産業界が門戸を開き、起業家精神をもったアーティストを受け入れるようにすることが、産業界の活性化につながるに違いない。

芸術デザイン系出身の創業者 (会社名/創業者名)
米ユーチューブ/チャド・ハーリー氏
米ゴープロ/ニック・ウッドマン氏
英ダイソン/ジェームズ・ダイソン氏
米エアビーアンドビー/ブライアン・チェスキー氏、ジョー・ゲビア氏
米ピンタレスト/エバン・シャープ氏
米Yコンビネータ/ポール・グレアム氏